

学校評価保護者アンケートより

4. 学校は、学力調査の結果を受けて具体的な学力向上策を検討し、指導にあたっている。  
⇒学力と非認知能力との相関関係があるとされている。非認知能力の向上に向け居心地のよい学級づくりに努めながら授業を展開している。

武蔵台小中学校は、学力向上のために令和7・8年度学校課題研究のテーマを「非認知能力の向上～自己効力感に特化した指導～」としました。本研究の仮説は、「自分の強みやよさに気づかせられれば、自己効力感が高まるだろう」です。「自己効力感」とは、「自分はそれが実行できるという期待や自信」のことを言います。

令和7年度は、研究組織【主体深部】と【学級経営部】を立ち上げ、授業と学級経営について全教職員で研究を行っています。

### 【主体深部】

自己効力感を向上させる授業の一環として毎時間「かたばみ」（右図参照）を活用した振り返りをしています。また、二人の教員がバディを組んで、互いの授業を参観し、授業者側が「自己効力感を高めるためのポイント」を明記した資料を参観者側に渡しフィードバックをしてもらうことを行っています。11月10日（月）に、所沢市立安松中学校校長の松本先生を招聘し、授業及び研究に対して指導をいただきました。



### 【学級経営部】

発達段階に合わせた「行動目標」を設定し、帰りの会などの時間を使って、振り返ったり認め合ったりする時間をもっています。また、「子どものよいところの見える化」として、授業や生活の中で教員が気づいたこと付箋に書き、教室掲示をしています。また、児童生徒会活動が中心となって「親指活動」を実施し、児童生徒が気づいたことを付箋に書き、昇降口に掲示しています。

